

IV 救 急 編

1 救急活動概況

当市は昭和39年7月の救急業務開始以来、社会経済活動の進展に伴い年々その体制が整備され、現在8救急隊（うち、1隊は白糠町消防事務委託）を運用し、市民の生命・身体を守る上で必要不可欠な行政サービスとして定着している。

そのような中、救急救命士制度の導入や救急隊員の行う応急処置等の範囲の拡大に伴い、全救急隊に高規格救急車の導入および救急隊員の教育訓練体制の整備を図るなど、救急業務の高度化の拡充に取り組んでいるところである。また、令和3年度からは「指導救命士を中心とした教育体制」の運用を開始。本部研修と連携した効果的な教育体制を確立し、救急隊全体のさらなるレベルアップを図っている。

今後は、関係機関との連携を強化するとともに、市民に対する応急手当の普及啓発活動を推進し、より一層の救命効果の向上を目指す。

- ① 救急救命士の育成・・・有資格者数75人
- ② 市民による応急手当普及啓発活動の推進
「応急手当の普及啓発活動の推進に関する要綱」（H19.10.11施行）
- ③ メディカルコントロール体制の構築
釧路・根室圏メディカルコントロール協議会の設立（H15.3.26）
- ④ 医師による包括的指示下での除細動の実施（H15.8.1開始）
- ⑤ 気管挿管可能な救急救命士1名を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備（H18.8.1開始）
- ⑥ 処置拡大2行為可能な救急救命士4名を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備（H27.11.1開始）
- ⑦ ビデオ硬性喉頭鏡による気管挿管可能な救急救命士4名を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備（H27.12.17開始）
- ⑧ 一般市民が行うAEDを用いた心肺蘇生法の普及に努め、救命効果の向上を図った。
- ⑨ 救急需要抑制対策として、オリジナルポスターの作成、SNSを使用した広報、市のホームページ、マスメディア等を活用し、救急車の適正利用をPRした。

2 救急に関する主な統計

令和4年の救急出動件数は10,950件、搬送人員9,962人で、前年に比べ出動件数においては604件(5.8%)の増加、搬送人員においても551人(5.9%)増加した。また、1日の平均出動件数が30.0件で、管轄区域内の住民約16人に1人が救急車を利用したことになる。

出動状況等、その他救急に関するデータについては表1から10のとおりである。

表1 年次別救急出動状況の推移(過去5カ年)

年別 区分	S39年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
出動件数	145	10,104 (528)	10,322 (520)	9,403 (490)	10,346 (552)	10,950 (454)
搬送人員	119	9,362 (467)	9,625 (447)	8,576 (450)	9,411 (459)	9,962 (405)
1日平均件数	0.4	27.7	28.3	25.7	28.3	30.0

※ 昭和39年は7月から業務開始。

※ ()内は白糠支署の出動件数及び搬送人員。

表2 事故種別救急出動件数の全件数に対する割合

種別 区分	火災	自然 災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他				合計
											転院	医師	資器材	その他	
件数	29	0	7	315	78	60	1,389	24	116	7,643	1,202	0	0	87	10,950
割合	0.3%	0.0%	0.1%	2.9%	0.7%	0.5%	12.3%	0.2%	1.1%	69.4%	12.2%	0.0%	0.0%	0.8%	100%

表3 月別救急出動状況

月 区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件数	918	765	805	828	872	819	951	1,003	899	944	1,006	1,140	10,950
搬送人員	842	701	740	746	802	734	867	912	815	864	903	1,036	9,962

表4 曜日別救急出動状況

曜日 区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	合計
日数	52	52	52	52	52	53	52	365
件数	1,720	1,550	1,578	1,577	1,579	1,525	1,421	10,950
1日平均	33.1	29.8	30.3	30.3	30.4	28.8	27.3	30.0

表5 時間別救急出動状況と急病の状況

区分	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	合計
件数	513	404	458	800	1,226	1,404	1,254	1,206	1,163	1,057	821	644	10,950
急病	420	321	371	607	914	864	737	712	776	786	638	497	7,643

表6 年齢別搬送人員状況

区分	新生児	乳幼児	少年	18~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65歳以上	合計
人数	3	245	220	490	376	495	798	458	6,877	9,962
割合	0.0%	2.0%	2.2%	4.9%	3.8%	5.0%	8.0%	4.6%	69.0%	100%

* 年齢区分・・・新生児 → 生後28日未満の者
 乳幼児 → 生後28日以上～7歳未満の者
 少年 → 7歳以上～18歳未満の者

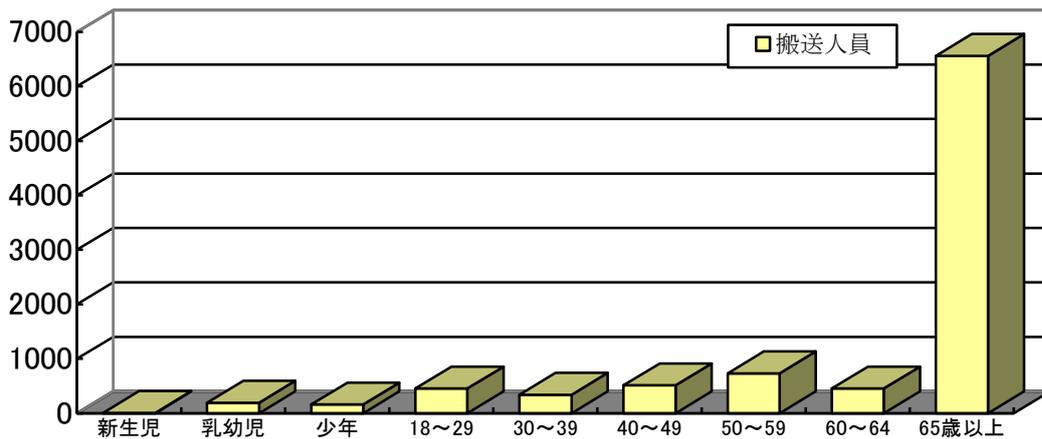


表 7 傷病程度別搬送人員状況

程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	235	717	5,394	3,615	1	9,962

※ 傷病程度区分

死 亡→初診時に死亡確認したもの

重 症→3週間以上の入院が必要なもの

中等症→入院が必要で重症に至らないもの

軽 症→入院を必要としないもの

その他→医師の診断が無いもの、医療機関以外へ搬送したもの

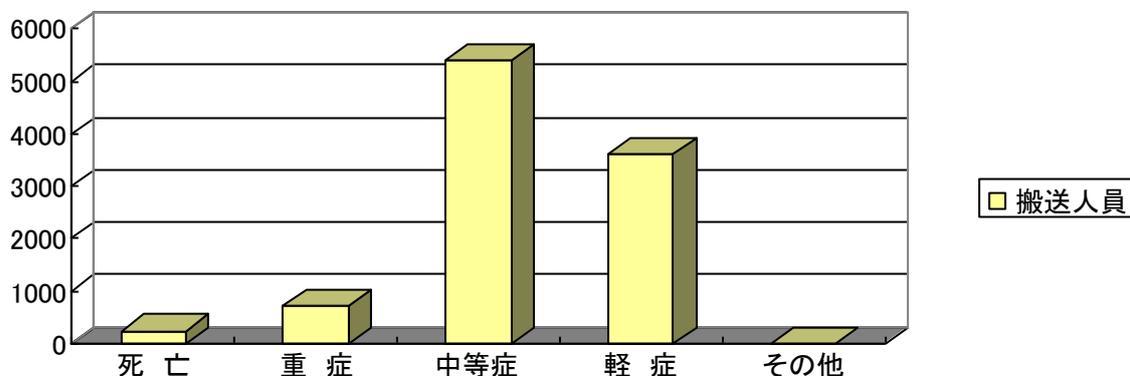


表 8 救急隊員が行った応急処置

応 急 処 置	件 数	応 急 処 置	件 数
止血・被覆	170	聴診	3,082
固定	271	血中酸素飽和度測定	9,693
人工呼吸のみ	43	心電図波形観察	4,458
心肺蘇生	260	除細動	23
酸素吸入	2,218	血糖測定	433
気道確保	358	器具を用いた気道確保 (特定行為)	141
異物除去	7	静脈路確保 (特定行為)	160
保温	42	薬剤投与 (特定行為)	85
在宅療法継続	623	ブドウ糖投与 (特定行為)	26
血圧測定	9,441	その他	9,844
合 計		41,378	

表 9 救命講習実施状況

区分	対 象	消防職員	消防団員	事業所	町内会	自主防 災組織	学校関係	団体 グループ	その他	合 計
		上級救命講習	回数			1				
	人員			1					28	29
普通救命講習	回数		1	14		3	6	1	14	39
	人員		9	95		33	92	9	82	320
一般救急講習	回数			53			81		2	136
	人員			727			2,186		12	2,925
救命入門コース	回数			1				1	1	3
	人員			11				16	19	46
普及員・指導員 養成講習	回数	6		1					2	9
	人員	6		5					2	13
上級救命再講習	回数			3				1	6	10
	人員			12				5	6	23
普通救命再講習	回数			46		1	2		3	52
	人員			264		2	6		4	276
普及員再講習	回数			1			1		3	5
	人員			5			1		5	11
合 計	回数	6	1	120	0	4	90	3	35	259
	人員	6	9	1,120	0	35	2,285	30	158	3,643

表 10 過去 5 カ年の救命講習実施状況の推移

年 区分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
実施回数	291	312	135	201	259
受講者数	6,031	6,453	1,668	3,517	3,643